

最新放射線医療機器が導入!

レントゲン博士のX線の発見から100年以上が経過し、X線装置やコンピュータなどの様々な技術進歩に伴い放射線領域は常に技術革新が起り、X線画像を用いた最先端の診断および治療が提供されてきています。特に体内をリアルタイムに画像化することが可能となり、診断効率の向上に繋がっています。また体を切り開くことなく体内を画像化することが可能なため、患者さんにとって低侵襲な検査や治療が可能になりました。この度、慈恵医大病院放射線部も最新鋭の診断および治療装置が導入されたので本コラムを通じ、ご紹介したいと思います。

診断領域では、手術室内に4つ目のハイブリッド手術室が増築されました。ハイブリッド手術室とは、手術台に血管X線装置を組み合わせた手術室のことです。従来手術室に血管カテーテル室を組み合わせることで、最先端の技術と科学の融合で最新の医療技術を提供することができます。当院では血管外科、心臓外科、耳鼻咽喉・頭頸部外科、脳神経外科、整形外科など様々な領域の外科手術を行っており、従来より更に迅速かつ安全に実施することが可能となりました。

核医学領域では、PET/CT装置が導入されました。CTやMRI検査は病気の形を画像化して異常を診る検査に対し、PET検査ではブドウ糖代謝などの機能から異常を発見することができます。更にPET/CT装置の導入によりPET画像とCT画像の融合画像を用いることにより、診断精度の向上を図ることが可能になりました。

放射線治療領域では、トモセラピーという放射線治療装置が導入されました。トモセラピーを用いた強度変調放射線治療は、がんに放射線を集中させ周辺の臓器にあたる放射線量を小さくできるため、従来の治療法より治療効果が高く副作用が少ない治療を実現しました。従来から使用している汎用型の治療装置と併せ、多くの患者を治療することが可能になりました。

これからも患者さんの立場に立った放射線医療を実践するために、患者さんの立場に立った医療の提供と最新の装置を利用し、各職種が一丸となってチーム医療を推進していきたいと思ひます。

慈恵大学病院 放射線部



感染症科

新任 診療部長
紹介



専門
感染症一般、
HIV感染症、
抗菌化学療法

よしだ まさき
吉田 正樹

感染症科では、HIV感染症、梅毒などの性感染症や敗血症などの全身感染症の診療を行っています。マラリア、デング熱などの輸入感染症にも対応が可能です。細菌、ウイルス、真菌、寄生虫の幅広い感染症の診療を行っています。抗菌薬の適正使用について他診療科からコンサルテーションを受け、患者さんに最適な治療を提供いたします。

感染症を防ぐための新しい生活様式

今年流行した新型コロナウイルスは、ウイルスに触れた手で口や鼻に触れることによって感染する接触感染と、咳やくしゃみ、大声での会話などで周囲1~2mにまき散らされたウイルスを吸い込んで感染する飛沫感染によってうつります。しかしこのウイルスは感染症状のはっきりしない初期にもまわりの人に感染を広げる可能性があります。そのため、うつらないために咳症状のある方から離れることのみならず、普段から人と人との間隔を保って生活することが予防に重要とされています。このように感染の可能性にかかわらず、すべての人が互いに身体的な距離を確保することで、ウイルスの蔓延を防止しようとする取り組みを、ソーシャルディスタンスと言います。特に持病を持つ患者さんは感染すると重症になることが知られていますので、人混みを避けたり、電車では混んでいる時間帯を避けるなど注意をしましょう。

感染対策部 中澤 靖

■日常生活の各場面別の生活様式

買い物	公共交通機関の利用
<input type="checkbox"/> 通販も利用	<input type="checkbox"/> 会話は控えめに
<input type="checkbox"/> 1人または少人数ですいた時間に	<input type="checkbox"/> 混んでいる時間帯は避けて
<input type="checkbox"/> 電子決済の利用	<input type="checkbox"/> 徒歩や自転車利用も併用する
<input type="checkbox"/> 計画をたてて素早く済ます	食事
<input type="checkbox"/> サンプルなど展示品への接触は控えめに	<input type="checkbox"/> 持ち帰りや出前、デリバリーも
<input type="checkbox"/> レジに並びときは、前後にスペース	<input type="checkbox"/> 屋外空間で気持ちよく
娯楽、スポーツ等	<input type="checkbox"/> 大皿は避けて、料理は個々に
<input type="checkbox"/> 公園はすいた時間、場所を選ぶ	<input type="checkbox"/> 対面ではなく横並びで座ろう
<input type="checkbox"/> 筋トレやヨガは、十分に人との間隔を	<input type="checkbox"/> 料理に集中、おしゃべりは控えめに
もしくは自宅で動画を活用	<input type="checkbox"/> お酌、グラスやお猪口の回し飲みは避けて
<input type="checkbox"/> ジョギングは少人数で	イベント等への参加
<input type="checkbox"/> すれ違うときは距離をとるマナー	<input type="checkbox"/> 接触確認アプリの活用を
<input type="checkbox"/> 予約制を利用してゆったりと	<input type="checkbox"/> 発熱や風邪の症状がある場合は参加しない
<input type="checkbox"/> 狭い部屋での長居は無用	
<input type="checkbox"/> 歌や応援は、十分な距離がオンライン	

新任 診療部長
紹介



専門
肝胆膵外科、
特に肝切除や肝移植

肝胆膵外科

いけがみ とおる
池上 徹

肝胆膵外科では、肝臓癌や膵臓癌などの悪性疾患に対する手術、胆石症や胆嚢炎など良性疾患に対する手術、そして肝硬変に対する生体肝移植など肝胆膵疾患に対する幅広い診療を行っています。肝胆膵疾患に対する確かな見識を背景に、他診療部と協力してチームで診療を行い、受診された方々に最適な医療を提供してまいります。

新任 診療部長
紹介



専門
麻酔科学全般、ペイン
クリニック、救急・集
中治療学、意識と痛
みの脳画像研究

ペインクリニック

くらた じろう
倉田 二郎

痛みは、見逃せない病気のサインであり、原因不明の慢性痛にもなります。私たちはそんな痛みの正体を調べ、痛みを和らげて健やかな日常を過ごせるようお手伝いします。お話しを丁寧に伺い、内服薬と神経ブロックを使い、運動・心理療法で痛みに強い身体と心を養います。MRIを使った脳の研究で慢性痛の原因を突き止めます。

新任 診療部長代行
紹介



専門
緩和医療学、
造血管悪性腫瘍、
血液内科学

緩和ケア診療部

しおた ゆうこ
塩田 祐子

緩和ケア診療部では、身体の苦痛だけでなく、気持ちのつらさや、さらには人生の意味への問いかけなど様々な苦痛に対し、寄り添い、和らげるお手伝いをできるよう、医師、看護師の他、多職種から構成されるチームで一丸となって取り組んでいます。がんと診断された時から、様々なステージでの切れ目のない緩和ケアを提供できるよう努めてまいります。

すこやか インフォメーション

慈恵大学病院だより



特集

病院病理部

診療科別医師紹介
病院病理部

新任 診療部長 紹介

感染症科 / 肝胆膵外科 / ペインクリニック / 緩和ケア診療部

Information

最新放射線医療機器が導入!



東京慈恵会医科大学附属病院

〒105-8471 東京都港区西新橋3-19-18

TEL 03-3433-1111(代)

URL <https://www.hosp.jikei.ac.jp>

病院病理部って何？

当院の病院病理部について紹介させていただきます。病院病理部は臨床系診療科と異なり、所属医師が直接患者さんにお会いしてお話をする機会がほとんどないため一般の方には馴染みがなく、その存在をご存じない方も多いかと思えます。そこでまず、病理医の役割についてご紹介したいと思います。私たちの主な業務は、皆さんの体の一部から採取された生検検体や手術で切除された臓器からプレパラートを作成し顕微鏡で診断する組織診断と、尿などから採取された細胞の形をみて判断を下す細胞診断です。これらは、特に悪性腫瘍などにおいては治療の方針を決定するうえで非常に重要なものです。皆さんの中には、「そういうことは主治医の先生が顕微鏡で見て判断されているのかと思っていた。」とおっしゃる方もいらっしゃるかもしれませんが、実は、その仕事を担っているのはわれわれ病理医なのです。この病理診断は、治療を決定するうえでの確定診断であり、チーム医療の中で重責を担っており、われわれ病理医は、それにやりがいを感じながら日々顕微鏡に向かい仕事をしています。また、不幸にして亡くなられた患者さんに対して、生前のご遺志に従って解剖を行い、今後の医療の発展に役立てていくことも我々の使命です。

当病院病理部の症例数は、1年間で組織診断が約17000件、細胞診断が約14000件、解剖が約30体で

あり、これらは全国でも有数の件数です。所属医師は常勤の病理専門医5名、非専門医・レジデント5名、合計10名で診断を行っています。また、定期的に院外から各臓器の専門家をお招きし、難しい症例の症例検討会を行って、より正確な診断を下すことができるよう心がけています。

近年、医学研究の急速な発展に伴い、病気の発症や進行に関して、細胞や遺伝子のレベルで色々なことがわかってきました。そうした知識や新しい技術は、日々の病理診断にも導入され、診断の進歩につながっています。こうした点から、病院病理部では常に最新の診断技術・設備の導入を行っています。特に、通常の染



7名までの人数で1つの症例を供覧できる顕微鏡。難しい症例は専門家を交えてディスカッションを行い、診断を下しています。

色による診断の手助けとして、電子顕微鏡（通常の顕微鏡では見ることができない細胞内の微細な構造を見る技術）、免疫組織化学染色（細胞の中に特定のタンパク質が存在するかどうかを見る方法）、in situ ハイブリダイゼーション法（細胞内のDNAやRNAを顕微鏡で見えるための方法）などが導入され、実施されています。特に免疫染色においては現在、約230種類の抗体を保有しており、それらを駆使して、より正確な病理診断に役立てています。

患者さんのご病気の診断、治療により一層貢献できる病院病理部となるよう、所属員一丸となって尽力したいと考えていますので、よろしくお願いいたします。



Ventana社製自動染色機。1回の操作で多数の免疫染色を自動でおこなうことができます。

診療科別 医師紹介

病院病理部

専門 泌尿生殖器病理

鷹橋 浩幸

出身大学(卒年) 東京慈恵会医科大学 (1988年卒)

出身地 広島県
趣味 広島東洋カープの応援

好きな言葉
いつも心に太陽を

病理診断を通して、患者さんの健康に貢献できるように、日々がんばります。



専門 婦人科病理

清川 貴子

出身大学 山形大学(1984年卒)

出身地 青森県
趣味 スパイ小説、散歩

好きな言葉
人事を尽くして天命を待つ

質の高い病理診断によって診療を支えたいと思います。



専門 泌尿器・男性生殖器病理

佐藤 峻

出身大学(卒年) 東京慈恵会医科大学 (2009年卒)

出身地 千葉県
趣味 旅行

好きな言葉
彼を知り己を知れば百戦殆うからず

患者様に適切な医療を提供できるよう、正確な病理診断に努めます。



専門 婦人科病理

岩本 雅美

出身大学(卒年) 旭川医科大学(2009年卒)

出身地 千葉県
趣味 旅行

好きな言葉
百聞は一見に如かず

患者さんにとって最善の医療につながるよう、病理医の立場から診療・研究に努めて参りたいと思います。

